



国際ロータリー第2800地区

# 鶴岡ロータリークラブ

## 超我の奉仕

例会日：毎週火曜日 午後 12:30～1:30  
例会場：鶴岡市錦町 東京第一ホテル鶴岡  
事務局：鶴岡市馬場町11-63(産業会館3F) TEL 0235-28-3375

第2304回 例会会報 平成18年2月21日(火) 晴(本年度 第30回)

### 会長報告 加藤 功

国際ロータリーは、新しい世紀に入り、カール・ヴィルヘルム・ステンハマー RI 会長は、ロータリーの基本理念の1つである「超我の奉仕」をテーマに掲げた。RI2800地区の社会奉仕の基本方針を意識すると、『超我の奉仕』はロータリーの奉仕活動をより一層社会に広め、充実した社会奉仕に高めていかなければならない。そのためには、ロータリアンは職業上の倫理と道徳の高揚に努め、将来にわたって奉仕の継続性と協力態勢を確立する。地域社会へのイメージを高めると共に、ロータリアンと新世代は奉仕の実践できる人間に成長していくことが求められる。そして奉仕の理想に向かって手を貸そうの精神で、一人ひとりが本当に果たすべき役割は何かあるのかを、理解、認識して行動していきたいと思えます」と述べている。

鶴岡ロータリークラブの社会奉仕活動の1つとして計画している。「アイドリング・ストップ運動」の意義について若干考えてみたいと思います。

この運動は3つの意義があると思います。すなわち、省エネルギー、地球温暖化防止、そして大気汚染など地球環境改善である。

省エネについては、現在、自動車の燃料は石油や石炭などの化石燃料に支えられている。化石エネルギーは再生不可能であり、このまま使い続けると、いつかは埋蔵量が枯渇すると言われている。長期間利用するには、できるだけ無駄なく効率よく利用する必要がある。化石エネルギーに代替するエネルギー源としては、原子力をはじめ環境にやさしい新しいエネルギーであるバイオマス、風力発電、ハイブリット電気、燃料電池、太陽光発電そして雪氷熱を挙げることができる。その開発と利用を促進する必要がある。これらは新エネルギーであると共に地球環境改善にも大いに寄与する。

地球温暖化防止については、最も緊急な環境対策の課題になっている。最近の科学的知見によると、気候変動に伴うリスクはきわめて大きいと考えられている。EU 諸国の地球温暖化対策のなかで「気候ターゲット2度」をかかげている。気候が2度前後上昇したときに激しい気候変動が起こり、人類は大きなリスクを負う可能性が高いという警告を発している。たとえば、気温の上昇、降雨量の影響、海面上昇の結果、海面水位上昇による影響の増加、とくに熱波や干ばつの気候変動と病虫害の増加が穀物生産を減少し、食糧生産に打撃を与えて飢餓人口の拡大、マラリアなど熱帯性の伝染病の蔓延と健康被害、水不足などが約30億人を襲うと予想している。これでは2050年の世界人口の約3分の1が被害を受けることになってしまう。'05年は世界的に最も暖かい年であったとされ、とくに北極海の温度上昇に注目される。地球温暖化の原因は「温室効果ガス」といわれている。これは大気中の二酸化炭素やメタンなどのガスは太陽からの熱を地球に封じ込め、地表を暖める働きがある。日本では1998年に二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、代替フロンなどの6種類のガスが温室効果ガスとして定められた。温室効果ガスの量構成をみると二酸化炭素94%、一酸化二窒素2.6%、メタン1.4%などである。しかし、地球温暖化係数(温度効果作用の程度)では二酸化炭素1にたいして天然メタン23、代替フロン数百～数千倍とされる。二酸化炭素(炭酸ガス)の世界の総排出量230億トンのうち、USA24%と最も多く、中国13%、EU諸国13%、ロシア7%そして日本5%の順である。

地球温暖化による被害を招かないためには、絶対に気温上昇2度以上にさせてはならない。その意味では、京都議定書は画期的な条約といえる。京都議定書が2005年2月16日に発効された。日本の排出削減目標は6%、しかし、京都議定書採択からの時間の経緯で温室効果ガスは確実に増え続けてき

車が動いていない時は

# ストップ! アイドリング

